

辺野古土砂北九州・ミニニュース

辺野古埋め立て土砂搬出反対北九州連絡協議会《2019年6月29日・No78》

連絡先…森下 090-9495-3902 南川 090-2853-7116 八記 080-1730-8895

kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp



61万0139筆の署名提出



上から…
環境省と防衛省交渉。
国会議員に新署名提出。
長時間の緊張から解放されて、安堵する参加者。
内閣府に旧署名提出。



6月10日、衆議院第2議員会館において、土砂全協の一連の取り組みが行われました。

- ① 環境省・防衛省交渉
- ② 記者会見
- ③ 交渉内容の説明や各地からの報告
- ④ 国会議員に新署名提出61万0139筆。
- ⑤ 交流会
- ⑥ 翌日、旧署名を内閣府に提出(今回 16252筆・累計 13万3572筆)

●昨年の総会で新署名の取り組みを決め、本格的に始まったのは、昨年の秋頃でした。短期間で61万筆を超えることができたのは、各地の平和フォーラムの皆さんが組織的に取り組んでくれたことが、大きかったと思います。

また、全国から、1筆・5筆と、メッセージとともに寄せられた1000を超える皆さんからの思いも、大きなものでありました。本当にありがとうございました。

第6回定期総会 in 奄美(報告)

辺野古土砂北九州 会員 大野保徳

5月25日(土)10時から、奄美市で開催された辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の第6回定期総会に続いて、「5.25 国会包囲網行動…全国と連携 ストップ辺野古埋め立て・辺野古新基地建設阻止奄美地区総決起集会」に参加してきました。辺野古土砂北九州に関わることと奄美について、簡単に報告します。

1、福岡県外来生物対策条例と海砂

総会当初のミニ講演において、環瀬戸内海会議顧問末田一秀氏から、鹿児島県では、自然と文化を守る奄美会議からの要望で、「指定外来動植物による鹿児島の生態系に係る被害の防止に関する条例」が今年3月に制定され、4月1日から施行されているとの説明があり、同様の外来生物対策条例の制定を他の搬出県に求めようとの提案がなされました。福岡県でも同様の条例を制定することが門司からの土砂搬出を停めるための重要な手立てになると思われまます。沖縄県にも「埋め立て土砂搬入規制条例」がありますが、沖縄県内でしか適用できないので、搬出県に条例があれば搬出県職員による立ち入り検査が可能になります。

大浦湾の軟弱地盤の存在を政府も認め、地盤改良工事で77,000本もの砂杭打設を行うことになり、新たに650万 m^3 もの砂、主に海砂が利用される見込みです。これは沖縄県の年間海砂採取量の約3~5年分の量です。土砂全協顧問湯浅一郎氏の報告によると、我が国の海砂採取は西日本でのみ行われ、福岡県、長崎県で全体の半数の量が採取されています。

したがって、沖縄県外から海砂を搬入しようとした場合、福岡県から搬出される可能性が大きいと思われまます。3月の福岡県調査では、年間総量規制400万 m^3 の内、実績は250万 m^3 ~300万 m^3 であり、約100万 m^3 の余裕があります。

砂杭に使う資材として、鉄鋼スラグが使われる可能性が高く、これも我が北九州市にある会社が商品として販売することも十分あり得まます。

2、採石場と陸上自衛隊駐屯地

少し前にスマホの動画で、音楽隊を先導に自衛隊員の行進が行われ、沿道には園児や住民による日の丸の小旗が振られる様子を見て、一瞬、戦前の話?とあって、いや~な気分になりました。その光景は、ここ奄美大島の瀬戸内町で3月30日に行われた歓迎パレードだったようです。

総会翌日、自然と文化を守る奄美会議事務局長城村典文氏の案内で奄美大島を南から北まで、採石場と自衛隊基地を見学しました。2019年夏に、奄美・琉球の世界自然遺産登録をめざすなかにあつて、どちらも奄美の貴重な自然を破壊して行われています。

辺野古に向けて奄美では530万 m^3 もの土砂がストックされています。住用地区市集落では、大雨で採石場の土砂が流れ出し、赤土が海に流れ込み、珊瑚が死に絶え、生活道路がふさがれるという被害が発生しています。

2カ所の自衛隊基地は、奄美の緑深い山を整地して、地对艦、地对空のミサイルが空を睨んでいる姿も見ました。日常生活で近づかない山の上にあるために、奄美の住民が実際に目にすることは無いでしょう。

交流会での地元の方のお話。「誘致派は、中国の脅威を唱える一方で、中国の富裕層を呼び込もうとクルーズ船の誘致を目論んでいる」「自衛隊基地を建設中は、コンビニの駐車場には、福岡県や山口県ナンバーの車がたくさん止まっていた。総理と副総理の地元業者が潤っています」

自衛隊基地は、自衛隊員の生活の利便性を考えて、奄美市と瀬戸内町という比較的住民が多く暮らす地域の近くの山に建設されています。有事の際、住民に被害が及ぶ危険性も大きいと思いまます。裁判などを行い、基地反対運動を行うも、ミサイル基地と共に島で暮らさざるを得なくなった案内人城村典文氏の淡々とした語り口の中に、これからも自衛隊基地に反対し、監視して行こうというあきらめない意志と幼子達の行く末を憂う気持ちを感じとることができた一日でした。一刻も早く政治の方向を変える必要があります。